



学校だより

ふじのき

学力特集号

平成29年11月 1日

学校教育目標 自ら学び 思いやりのある たくましい子どもの育成

“褒めて・認めて・励まして” あなごの花”を心の中で満開に咲かせましょう”

〒808-0071 若松区今光一丁目18番1号 TEL 791-2731 FAX 791-2732 校長 松本喜義

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語 A	<ul style="list-style-type: none"> 言語についての知識理解技能に課題がある。 漢字を正しく書いたり読んだりすることに課題がある。漢字練習の仕方を工夫したり、辞書を引く習慣を身に付けたりする必要がある。
国語 B	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ適切な言葉遣いで話すなど話す聞くに課題がある。
算数 A	<ul style="list-style-type: none"> 計算の技能を問われる問題は正答率が高かった。 数量の関係を数直線上に表す問題では無回答率がやや高かったため、毎時間の学習の中で数直線や関係図を使って表すことができるようにする。 基本的な力を身に付け知識理解を高める必要がある。
算数 B	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な考え方を問われる問題に課題がある。応用問題に対して苦手意識があるので粘り強く取り組めるようにまずは基本的な力を身に付ける必要がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

- ・ 学習習慣については、自分で計画を立て家庭学習を60分以上学習している割合が増えた。
- ・ 携帯スマホ電源OFFの取組により60分未満であるという割合が増えた。
- ・ 「将来の夢や希望を持っていますか」と答えた児童は100%である。また、「人の役に立つ人間になりたい」という児童も増えている。今後も本校の主題である道徳教育を推進していくとともに、今後も夢や希望を持ち続けていけるように支援をしていく。
- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を向けさせるよう朝自習の視写の時間に要約するような学習を取り入れる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・ 「話し合い活動について深まっていない」という課題があったが、発達段階に応じた話し合いの型や話し合いモデルを職員の共通理解のもと作成した。各学級に掲示し各教科で取り組む。
- ・ 算数科の学習への関心が薄く思考力が問われる問題が苦手という課題から、6年生を3つのグループに分け、9月下旬より担任、教務、市費講師による少人数学習を行っている。
- ・ ICTや書画カメラをどの学級でも活用し、学習意欲が高まってきている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 1学期に、家庭学習「藤木スタイル」を作成した。中学校と情報交換を行い、中学2・3年生のレベルまで到達させるためには小学校段階でどこまでの力を付けるとよいか学力向上部会で話し合いを行った。児童に家庭学習をするときの約束を説明した。また、保護者にもプリントを配布。毎学期「家庭学習チャレンジ週間」を設けている。
- ・ 生活習慣について規則正しい生活をすることや家庭でのルールについて家庭で話をしてもらうよう、保健便りや学年通信などで啓発する。